

日本語との対照によるモンゴル語構文論の試み(その1)

再帰所属語尾をめぐって

飯田 純(東京外国語大学博士後期課程単位取得退学)

はじめに

「動詞(用言)複合体」と「格語尾」——モンゴル語と日本語で共通に導入できる概念。

現在、モンゴル語の特定の文学テキストに現れる「動詞複合体」を逐一記述し、まず最も重要な「終止形語尾」を含むものの実態を明らかにするために博士論文を準備中。

「所属語尾」——日本語には存在しない。

「再帰所属語尾」(-aa⁴)と「人称所属語尾」(минь, маань, чинь, тань, нь)。

今回は「再帰所属語尾」を取り上げる。

栗林均(1992)によれば

・再帰所属語尾(...)は、斜格(主格以外の格)形の名詞に付いて、それが、文の主語に所属することを表わし、多くの場合、「自分の～」と訳しうる。

・人称所属語尾は、「私の」「君の」「彼の」など、人称代名詞の属格形と同様の所有、所属の意味を、語尾によって表わす。... 名詞類の格変化形(主格を含む)に接尾する。

短編小説の最初の文を扱う意義

テキストを扱いながらも、どうしても一つの文を取り上げなければならない場合どうするか。完全ではないが、テキストの第一文を扱えば最も弊害がない。テキストは後に続くのみで、それ以前の文脈を考慮する必要がないからである。テキストの第一文は、切れ切れの作例文とは全く異なる。

以下、モンゴル国の作家ツェデブ(Д. Цэдэв)の短編小説の冒頭(部分)の文を扱う。

無前提で安易なグロスへの疑問

グロスは最低限にとどめなければならない。無前提にグロスをつけていってしまったら、問題にすべきものに目を向けられない構図を作ってしまう。

ここでは、「語尾」はフレエズを作る(例. 格語尾、動詞語尾)、「接尾辞」は語を作る、という原則にのっとり、以下の略号のみを用いる。

属：属格語尾、 対：対格語尾、 位：(与)位格語尾、 奪：奪格語尾、
具：具/造格語尾、 共：共同格語尾、 自：再帰所属語尾、
連体：連体形語尾、 連用：連用形語尾、

実例の検討

モンゴル語の「所属語尾」の部分と、それに対応する日本語訳の部分には下線を引いた。また、キリル文字表記のすぐ下に、便宜的にローマ字転写を加えた。

1. 属格-/ 対格-/ 不定格-/ 位格- 再帰所属語尾

ХҮЛГ-ИЙН ДӨРӨӨ 馬のあぶみ (1976) より

Эрвээлжхэн эмээл тох-сон хээр үрээн-д тавхан настай намайг

Erbeeljhen emeel toh-son heer vreen-d tabhan nastay namaug

小さい鞍 置いた 栗毛の馬 位 ほんの五 歳の 僕を

сэвхий-тэл өргө-н мордуул-ж ган дөрөө дөрөөлүүл-сэн аав минь,

sebhiy-tel wrgw-n morduul-j gan dwrww dwrwwlvvl-sen aab miny,

さっと かかえ上げて乗せて 鋼 鐙 踏ませた(連体) 父 私の

---За, чи эмээл-ийн-хээ бүүрэгн-ээс бари-ад дөрөө-г-өө сайн жий-ж яв-на шүү.

Za, cyi emeel-iy-n-hee bvvregn-ees bari-ad dwrww-g-ww sayn jiy-j yab-na syvv.

さあ、お前は 鞍 属 自 先 奪 握って 鐙 対 自 よく 踏んで いくんだよ。

Би жаахан хөтөл-ж яв-аад тави-на. Чи жолоо цулбуур-аа гар-т-аа ав-аарай

Bi jaahan hwtwl-j yab-aad tabi-na. Cyi joloo culbuur-aa gar-t-aa ab-aaray

私は 少し 引いて 行って 放す。お前は 手綱 自 手 位 自 取りなさい

гэ-ж хэлэ-в.

ge-j hele-b.

と 言った。

小さい鞍(を)置いた栗毛の馬に、ほんの五歳の僕をさっとかかえ上げて乗せて、鋼の鐙に足を置かせた父は「さあ、お前は鞍の先を握って、鐙をしっかりと踏みしめていくんだよ。私は少し引いて行って放す。お前は手綱を手に取りなさい」と言った。

査読 A 氏は、ган дөрөө дөрөө-л-үүл-сэн аав минь 「鋼のあぶみに足を置かせた父は」

鋼 鐙 鐙-する-使役-た(連体) 父 私の

の дөрөө 「あぶみ」が何格か気になっているようだが、これはフレエズ全体が「鋼のあぶみに足を置かせた父は」という日本語にあたるのだというしかない。分析して見ると、дөрөө 「鐙」に動詞形成接尾辞 -л- が接続して形成された дөрөө-л- 「鐙に足を置く」という意味の動詞語幹の前に、ган 「鋼」 дөрөө 「鐙」が来ている。同一の形態素が繰り返される дөрөө дөрөө-л- の部分は、日本語に直訳すれば「鐙あぶみする」とでも言おうか。日本語の「歌うたう」などと似た表現と言えよう。さらに、日本語の「あぶみ」という語は「足(あ)踏み」の意とのことだから、дөрөө дөрөө-л- は「鐙を足で踏む」とした方がよいかもしれない。дөрөө дөрөө-л- を「鐙を(足で)踏む」と訳すにせよ、「鐙に足を置く」と訳すにせよ、дөрөө

に格語尾はないのだから、何格か拘泥しすぎるのは有益ではない。栗林(1992)は、これを不定格と呼んでいる。

ган「鋼」は дөрөө「鐙」の材質を表しており、ган「鋼」も дөрөө「鐙」も名詞といってよい。ган「鋼」に属格語尾はないが、ган дөрөө は自然な日本語に訳せば「鋼の鐙」となって「の」が挿入される。このような ган を A 氏は「語尾のない属格」というのかもしれない。しかし、これは日本語訳の問題であり、「語尾のない属格」という表現は排除したい。

4つの主格は、結果として「は」ではなく「が」と訳しても落ち着く。特に3つの主格形は、「お前が」「私」「お前が」という対比を表わすと解釈することもできる。

2. 不定格-/ 具格- 再帰所属語尾

ХУР 雨 (1967) より

Хавь орчн- <u>оо</u> аж-вал,	хур-ын дуслууд	газар дэлдэ-н буу-х-ад
Navy orcyn- <u>oo</u> aj-bal	hur-in dusluud	gazar delde-n buu-h-ad
周囲 自 よく見たら	雨 属 滴	地面 叩いて 降る 位
усан түсрэг	түм түм-ээр- <u>ээ</u>	үсчи- <u>нэ</u> .
usan tvsreg	tvm tvm-eer- <u>ee</u>	vscyi-ne
水 しぶき	万 万 具 自	飛び散る。

周囲をよく見たら、雨の滴（が）地面（を）叩いて降ると水しぶき（が）たくさん飛び散る。

この文では2カ所で所属語尾が使われている。まず、Хавь орчн-оо аж-вал,の -oo は「(語り手が) 自分の周囲をよく見ると」ということだが、これは後の文脈で「私」であることがはっきりする。

次に、усан түсрэг「水しぶき (が)」 түм түм-ээр-ээ үсчи-нэ.「たくさん飛び散る。」において、түм түм-ээр-ээ とは直訳すれば「その水しぶき 自体の 万万によって」となる。

このように、同一文中であっても別々の動作主とその動作が表現の順序において錯綜しなければ、同一形式の語尾 -oo, -ээ が (нь の助けは借りずに)「私」と「水しぶき」という全く別の動作主の所属関係を表すのにも用いられるのである。

3. 共同格-/ 不定格- 再帰所属語尾

ОХИН-Ы ЯРИА 少女のおしゃべり (1984) より

Манайх гэр-т бай-даг.
Manaih ger-t bay-dag.
私たち ゲル 位 いる

Аав-ыг хичээл заа-х-аар, ээж-ийг цэцэрлэг-т хүүхэд хүлээ-ж ава-х-аар ява-ха-д
 Aab-iyg hicyeel zaа-h-aar, eej-iyg cecerleg-t hvvhed hvlee-j aba-h-aar yaba-ha-d
 父 対 授業 教える(連体)具、 母 対 幼稚園 位 子供 受け入れる(連体)具 行く(連体)位、
 би өвөө-тэй-гөө үлд-дэг. Өвөө бид хоёр өглөө гэр-ээ цэвэрлэ-нэ.
 bi wbww-tei-gww vld-deg. Wbww bid hoyor wglww ger-ee ceberle-ne.
 私は じいじ 共 自 残る。 じいじ私たち二人 朝 ゲル 自 掃除する。

わが家はゲル住まいです。父さんが授業をしに、母さんが幼稚園に子供を受け入れに行くと、私はじいじと残ります。じいじと私は朝家を掃除します。

ява-ха-д「行くと」の動作主は、Аав-ыг「父さんが」・ээж-ийг「母さんが」のように対格語尾を伴って表現される。従属節において動作主が対格語尾を伴って表れる理由は、おそらく主格形が(陳述の)終止形と直結することを示唆するからであろう。

4. 不定格-/ 位格-/ 具格- 再帰所属語尾

ҮНЭГ きつね (1967) より

《...Чадраа овоо залуу бай-х нь ээ дээ. Оролдлого чармайлт сайтай нь лавтай-даг.

Сүадраа овоо залуу бай-х нь ee dee. Oroldlogo cyarmaylt saytay нь labtay-dag.

チャドラー かなりの 若者 のようだ 彼の なあ。 がんばり 良い 彼の 確かだ。

《Ирээдүйтэй залуу》 гэж багш нар нь босон суун магта-цгаа-на.

Ireedvytey залуу гэж bagsy нар нь boson suun magta-cгаа-на.

「将来ある 若者」と 教師 たち 彼の 立って 座って 称賛し合う。

Бас манай нөхөд ч 《Зүгээр залуу》 гэж яри-х юм. 《Сургууль төгсө-х бол-лоо...》

Bas manay nwhwd cy Zvgeer залуу гэж yari-h yum. Surguuly twgsw-h bol-loo...

また 我が 友人たちも 「良い 若者」と 言う のだ。 「学校 終える(こと)になった」

гэж өөр-өө өдөр өнжи-л-гүй л ор-ж ир-э-х юм. Яа-я даа яа-я... байз уу...》

gej wwr-ww wdwr wnji-l-gvy l or-j ire-h yum. Yaа-ya daа yaа-ya... bayz uu...

と自ら 自 一日 抜かさず も 入って 来る のだ。 どうしようかな。 待てよ」

гэж Очир тасалгаан-д-аа ганц-аар-аа бодолхийлэн суу-жээ.

gej Ocyir tasalgaan-d-аа ganc-aар-аа bodolhiylen suu-jee.

と オチル 部屋 位 自 一人 具 自 思い巡らして いた。

「チャドラーはかなりの若者のようだなあ。 がんばりが良いのは確かだ。「将来ある若者」と教師たちがことあるごとに称賛し合う。また我が友人たちも「良い若者」と言うのだ。「卒業することになりました」と自ら一日も欠かさず入って来るのだ。どうしようかな。待てよ」とオチルは部屋で一人思い巡らしていた。

5. 属格-再帰所属語尾, 連体形-形式名詞-位格語尾-再帰所属語尾

ЖИНСТ ジンスト (1966) より

--- Баян хангай минь! Энэ үг-ийг ээж минь

Bayan hangay miny! Ene vg-iyg eej miny

豊かなハンガイ 私の この言葉 対 母 私の

цай сүүн-ий-хээ дээж-ийг Жинст уулан-д өргө-х тоолон-д-оо

cau svvn-iy-hee deej-iyg Jinst uulan-d wrgw-h toolon-d-oo

茶 乳 属 自 良い物 対 ジンスト 山 位 捧げる(連体) 度 位 自

уншлага мэт давт-даг юм.

unsylaga met dabt-dag yum.

読経 のように 繰り返す のだ。

豊かなハンガイ(森山)よ。この言葉を母(は)茶(や)乳の良い物をジンスト山に捧げる度に読経のように繰り返すのだ。

6. 連体形-位格語尾-再帰所属語尾

ХУУЧР-ЫН АЯЛГУУ ホーチルの音色 (1975---1978) より

Би хичээл-д очи-х- ирэх-д-ээ голдуу л нэг зам-аар яв-на.

Bi hicyeel-d ocyi-h- ire-h-d-ee golduu l neg zam-aar yab-na.

僕は 授業 位 行く(連体) 来る(連体) 位 自 主に 一 道具 通る

僕は授業に行き来するとき(登下校のとき)主に同じ道を通る。

文頭の Би「僕は」に係るのは、文末の яв-на「行く」である。途中の хичээл-д очи-х ирэх-д-ээ の -х-д- は動詞の連体形語尾の一つに位格語尾が接続したもので、「授業に行き来することにおいて」つまり「授業に行き来するとき」と訳せる。この部分の動作主も同一人物の「僕が」であるが、これは文頭の Би「僕は」が очи-х ирэх-х「行き来する」にも係るのではなく、очи-х ирэх-д-ээ に再帰所属語尾 -ээ があることで表現されている。つまり хичээл-д очи-х ирэх-д-ээ は「自分が授業に行き来するとき」ということであり、Би「僕は」が「僕が」と訳せる余地はない。

7. 連用形-再帰所属語尾

ЗАМ-Д 道にて (1983) より

<Хүү-гийн чинь бие тааруу яаралтай ир->

Hvv-giyn cyiny biye taaruu yaaraltai ir-

息子 属 貴方の 体 よくない 急いで 来い

гэ-сэн цахилгаан Цэнхэрмандал сум-ын төв-өөс илгээ-сн-ийг үз-үүт-ээ л
ge-sen cahilgaan Cenhermandal sum-in twb-wws ilgee-sn-iyg v_z-vvt-ee l
といった 電報 ツェンヘルマンダル 郡 属 中央 奪 送られた(連体)対 見るとすぐ 自
би эм-ийн сан-гаар шуртхий-н ор-ж эм тариа цуглуул-ж ав-аад аян зам-ын унаа хай-в.
bi em-iy_n san-gaar syurthiy-n or-j em taria cugluul-j ab-aad ayan zam-in unaa hay-b.
私は 薬 属 店 具 さっと 入って 薬 注射 集めて とって 旅 属 乗り物 探した。

「息子さんの容態がよくない、すぐ帰れ」という電報がツェンヘルマンダル郡役場から送られたのを見るや否や、私は薬局にさっと立ち寄って薬や注射をかき集めて旅の乗り物を探した。

8. 不定格-再帰所属語尾, 不定(位?)格-再帰所属(位格?)語尾

НҮҮДЛ-ИЙН ШУВУУ 渡り鳥 (1976) より

Нүүдл-ийн шувууд	хөх тэнгэр-ийн	уудм-аар	зэл тата-н	ир-ж
Nvvd _l -iy _n syubuud	hwh teng _{er} -iy _n	uudm-aar	zel tata-n	ir-j
移動 属 鳥たち	青 空 属	広がり 具	つなぎ繩 引いて	来て

Цэнхэр нуур-ын усн-аа жигүүр-ээ амраа-н гангана-х бол-соор нэлээд хэд хоно-в.
Cenher nuur-iy_n usn-aa j_{ig}vvr-ee amraa-n gangana-h bol-soor neleed hed hono-b
ツェンヘル湖 属 水(位)自? 翼 自 休め ガアガア鳴く(こと)なりつつ かなり 数日 とどまった。
渡り鳥たち (が) 青空の広がりを連なってやって来て、
ツェンヘル湖の水に翼を休めてガアガア鳴きながらしばらくとどまった。

Нүүдл-ийн шувууд「渡り鳥たち(が)」жигүүр-ээ амраа-н「(自分たちの)翼を休めて」хоно-в.
「留まった」のは明白である。

では、Цэнхэр нуур-ын усн-аа「ツェンヘル湖の水に」の -aaは何への帰属を表すのだろうか。「渡り鳥たち_の」だとしたらあまりにも関わりが漠然としているし、「ツェンヘル湖_の」だとしたら「動作主」に帰属するという再帰所属語尾の原則にはずれてしまう。そもそも、再帰所属語尾なのだろうか。この усн-аа の-aaは小沢(1997)で触れられている文語の与位格語尾である可能性が高い。こう解釈すれば、すっきり「水_に」と訳せる。

栗林(1992)には、「一部の名詞は、格変化に際して、語幹末に鼻子音...をもつ形と、鼻子音をもたない形が交替する(いわゆる「不定のn」)。「不定のn」は、主格、対格、造格、共同格、および、不定格では現れず、属格、与位格、奪格の前で現れる。」とある。

Усはまさにこの「不定のn」をもつ語幹であり、усн-ааはусн-の側から言えば属格か与位格か奪格の可能性を示し、-aaの側から言えば与位格だと断定していることになる。

ただし、形式が同一なので、усн-ааに漠然としているとは言え、「渡り鳥たち」への帰属がほのめかされているのではないか。

9. 不定(位?)格-再帰所属(位格?)語尾

АЙРГ-ИЙН АМТ 馬乳酒の味 (1967)

Миний бие дэнж дэв-ээр захал-ж бэлч-сэн хэдэн гүү-г

Miniy biye denj deb-eer zahal-j belcy-sen heden gv-v-g

我が身 丘 具 放牧した(連体) 数頭の 雌馬 対

<Гурий! Гурий!> хурайла-н зэлн-ээ хөө-ж ирэ-в.

Guriy! Guriy! Hurayla-n zeln-ee hww-j ire-b

「ゴリー、ゴリー」 呼び つなぎ繩(位) 自? 追って きた。

私は丘に沿って放牧した何頭かの雌馬を「ゴリー、ゴリー」と呼び、
つなぎ繩に追ってきた。

Миний бие「私は」という人称代名詞 **би** の代名詞 (?) が使われている。
зэлн-ээ は 8. の усн-аа と全く同じ解釈ができる。

10. 位格-再帰所属語尾, 連体形-再帰所属語尾(?)

ХУРГА こひつじ (1967) より

Хар түрүүт хурга эх-д-ээ гүй-н оч-ж дэлэн-гий нь нудчи-сн-аа

Har tvrvvt hurga eh-d-ee gv-y-n ocy-j delen-giy ny nudcyi-sn-aa

黒い 頭の 子羊 母 位 自 走って行って 乳房 対 その たたき続けた(連体) 自?

хажуу-гийн хонин-ы цавь уруу хошуу сунга-в.

hajuu-giyn honin-i cavy uruu hosyuu sunga-b.

傍 属 羊 属 腿 の下に 鼻先 伸ばした。

黒い頭の子羊(は) 母親の元へ走って行って 乳房をたたき続けたが、傍の羊の腿の下に
鼻先 (を) 伸ばした。

эх-д-ээ は「子羊の母親のもとに」ということである。また、дэлэн-гий нь нудчи-сн-аа
「乳房をたたき続けたが」の -гий は、対格語尾 -г の直後に所属語尾 нь が続く場合に、
口調上の長母音 -ий が挿入されたものである。дэлэн-гий нь は「母羊の乳房を」ということ
になる。нудчи-сн-аа 「子羊がたたき続けたが」の -аа は文語の与位格語尾の可能性もある。
主格の хурга 「子羊」の所属物・所属動作は -ээ, -аа を用いて、位格の эх-д-ээ に登場する
「母親」の所属物は нь を用いて表現しており、結果として、どちらの所属物・所属動作な
のかが錯綜しない。

11. 位格-再帰所属語尾, 連体形-再帰所属語尾(?)

ЗОЧИН-Д ҮЙЛЧИЛ-СЭН НАМТАР 客に仕えた話 (1983) より

Zocyin-d vilcyil-sen namtar

客 位 給仕した(連体) 話

Албан тасалгаан-д-аа утс-аар ярь-ж бай-сн-аа нэгдл-ийн дарга гар-ч ир-ээд,

Alban tasalgaan-d-aa uts-aar yary-j bay-sn-aa negdl-iyn darga gar-cy ir-eed

執務室 位 自 電話 具 話して いた 自? 協同組合 属 長 出て 来て、

--Гуанз уруу яаралтай яв-наа хө гэж надад хэлэ-в.

Guanz uruu yaaraltay yab-naa hw gej nadad hele-b.

食堂 へ 急いで 行くぞ と 私に 言った。

執務室で電話で話していたが、協同組合長は出て来て「食堂へ急いで行くぞ」と私に言った。

Албан тасалгаан-д-аа утс-аар ярь-ж бай-сн-аа を直訳すれば「(自らの) 仕事部屋において電話で話して (自らの) いた (ことに)」となる。この動作の主は、だれであろうか。直後の нэгдл-ийн дарга 「協同組合長」だろうか。それとも後ほど位格形 надад で現れる「私」だろうか。この点は日本人母語話者が誤解しやすい箇所である。

Албан тасалгаан-д-аа утс-аар ярь-ж бай-сн-аа の 2 か所の再帰所属語尾は、いわゆる「後方照応」的と言える。直後の нэгдл-ийн дарга の дарга 「長」は何の語尾も伴わない主格であり、照応されるにふさわしい。それに対して、надад 「私に」は位格形であり、決して照応されない。再帰所属語尾は主格に照応するのである。

12. 単なる所有ではない再帰所属語尾の指示する領域

東外大言語モジュール モンゴル語会話モジュール Unit5 「謝る」より

女性：Уучл-аарай. Тан-аас нэг юм гуй-маар бай-на.

Uuцyl-aaray. Tan-aas neg yum guy-maar bay-na.

ごめんなさい。貴方 奪 一 事 頼みたい。

ごめんなさい。ちょっとお願いがあるのですが。

男性：Тэг- тэг-, юу гээ-э вэ?

Teg- teg-, yuu ge-e be?

そうして、何というか?

はい、何ですか。

女性：Та цаад толь бичг-ээ нааш нь ав-аад өгө-х-гүй юу?
Та саад толь бичг-еэ наасын уу аб-аад wgw-h-gvy уу?

貴方は あの 辞書 自 ここへ その とって くない か
あの辞書をこちらにとってくれませんか。

男性：Тэг-ье, тэг-ье. Энэ чинь шин-ээр гар-сан толь бичиг үү?
Тег-уе, teg-уе. Ene cyiny syin-eer gar-san toly bicyig vv?
そうしよう。これ 貴方の 新た 具 出た(連体) 辞書 か。
はい。これは新しく出た辞書ですか。

女性：Тийм ээ. Энэ жил хэвлэ-гд-сэн шинэ толь бичиг.
Tiyem ee. Ene jil heble-gd-sen syine toly bicyig.
そう。この年 出版された(連体) 新しい 辞書。
はい。今年出版された新しい辞書です。

男性：Энэ толь бичг-ийг хаана зар-ж бай-гаа-г нь та заа-ж өг-ч боло-х уу?
Ene toly bicyg-iyg haana zar-j bay-gaa-g ny ta zaa-j wg-cy боло-h uu?
この 辞書 対 どこで 売っている(連体) 対 その 貴方は 教えてくれて なるか。
この辞書がどこに売っているか教えてくれませんか。

女性：Боло-л-гүй яа-х вэ, тэг-ье.
Bolo-l-gvy yaa-h be, teg-уе.
ならなくて どうするか、そうしよう。
もちろんです。

男性：За би хаяг-ийг нь бич-ээд авъ-я.
Za bi hayag-iyg ny bicy-eed ab-ya
さあ 私は 所在地 対 その 書き とうろ。
では所在地を書きとります。

女性：Та үзг-ээ түр өг-өөч? Би хаяг-ийг нь бич-ээд өг-ье.
Та vzg-ee tvr wg-wwcy? Bi hayag-iyg ny bicy-eed wg-yw.
貴方は ペン 自 少し 与えて? 私は 所在地 対 その 書いて やろう。
ちょっとペンを貸して。所在地を書いてあげます。

男性：За, тэг-。
Za, teg-。
さあ、そうして。
はい。

女性が男性にとってもらった辞書はだれのものか。
所有物ではなく、もっと広い所属を表示している。
(結果として、単なる格表示へと変わりつつあるのではないか。)

まとめ

モンゴル語の論理

再帰所属語尾 -aa⁴ は主格に（明示されていないときは動作主（主語）に）呼応する。

栗林(1992)説の拡張

-aa⁴ は単に「名詞につく」のではない。必ず文中の補語や従属節の働きを明示している。

- ・不定格と Хавь орчн-оо, гэр-ээ, жолоо цулбуур-аа, жигүүр-ээ, →「対格化」
(өөр-өө, 「自分で」)
- ・「不定の n」をもつ語幹と усн-аа, зэлн-ээ, →「位格化」
- ・属格と эмээл-ийн-хээ, цай сүүн-ий-хээ,
- ・対格と дөрөө-г-өө,
- ・位格と тасалгаан-д-аа, гар-т-аа, эх-д-ээ, Албан тасалгаан-д-аа,
- ・奪格と
- ・具格と түм түм-ээр-ээ, ганц-аар-аа,
- ・共同格と өвөө-тэй-гөө,
- ・連体形-形式名詞-位格語尾と өргө-х тоолон-д-оо,
- ・連体形-位格語尾と очи-х-ирэ-х-д-ээ,
- ・連体形と нудчи-сн-аа, ярь-ж бай-сн-аа,
- ・連用形と үз-үүт-ээ л,

「引用・参考文献」

飯田純(準備中)『モンゴル語の動詞語尾 -нэ,-в,-лээ,-жээ について』東京外国語大学大学院博士学位論文.

小澤重男(1994)『元朝秘史』岩波新書.

小沢重男(1997)『蒙古語文語文法講義』大学書林.

尾上圭介(2001)『文法と意味 I』くろしお出版.

金岡秀郎(2009)『実用リアル・モンゴル語——わかりやすい文法ナビ』明石書店.

菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人(1988)『コスモス朝和辞典』白水社.

栗林均(1992)「モンゴル語」『言語学大辞典 第4巻』三省堂.

塩谷茂樹(2009)『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究 (改訂版)』私家版.

三上章(1955 ; 1972)『現代語法新説』くろしお出版.

三上章(1963a)『日本語の論理 ハとガ』くろしお出版.

渡辺実(1971)『国語構文論』塙書房.

「例文出典」

Д.Цэдэв (1992): СЭВТЭЭ НЬ ҮГҮЙ СЭТГЭЛ, УЛСЫН ХЭВЛЭЛИЙН ГАЗАР Улаанбаатар
東外大言語モジュール モンゴル語会話モジュール.